



飯塚 多賀彦
小西 崇弘
小松 亮

飯塚 多賀彦
小西 崇弘
小松 亮

御茶ノ水の街は学生・会社員等、様々な人々により構成されているが、その大半は夜間この街を離れ、夜間人口の低下を引き起こしている。この現状は地価の高いこの地域において、余りにも不経済であり、大きな都市問題の一つとなっている。そこで私達はこの問題の解決案として、都市空間を共有すること

による高度な空間利用を考えた。又共有によって生まれる世代間の交流や、現在の都市生活で忘れられつつある姿を呼び起こす。

指導=根上 彰生

学生の街御茶ノ水が一方で小学生から老人まで多様な世代に利用されていることに着目し、早い段階から「都市空間の共有」をテーマとして提示し、世代間の交流による文化の継承や時間軸による空間の複層の利用などへと議論を展開して最後までそれにこだわって設計に結び付けた。毎時間資料を用意し、着実に議論を積み重ねていった成果が設計に反映されている。デザ

インは比較的地味であるが、コンセプトと設計プロセスを大きく評価する。

指導=白井 勇

時間帯に関わらず空間の利用度を上げる“共有”という概念を取り入れた計画は評価できる。さらに子供から老人まで、学生から社会人まで各層の交流の場としての“共有”の提案も都市再生に必要な考え方であり評価できた。ただし、建築的な構成と各部分のつながりはさらに検討が必要と思われ、建築群としてのデザインの流れは感じられるものの、空間を特徴づける“きっかけ”となるべきものが明解でないのは残念である。

指導=吉井 信幸

日本の和室は朝は食堂、昼間は居間、夜は寝室と用途を変え利用できる優れた空間で、この計画は都市内の複合施設でこの概念を実現させている。共存しにくいさまざまな用途の施設をうまく組み合わせ、24時間機能させることであらゆる世代のコミュニティを可能にするプログラムが組まれている。デザインは交差点部の壁が高すぎることや住宅棟の形態について一考を要するものの、グランドを覆う屋根に特徴がありランドマーク性が高い。用途の組み合わせが常識的でなく、ここに設計者の気持が表れていておもしろい。

設計演習Ⅱ

課題
学生街の再生
—御茶ノ水・駿河台地下地区開発計画

4年

担当=
根上 彰生
白井 勇
吉井 信幸